

第2章 提言

2-1 総括

地質調査を実施した4地区のうち、Tempursari, Seweden, Prambonの3地区においてさらに調査を実施することを提言する。3地区のうちTempursari地区では地表で把握した鉱化変質帯のうち、とくに物理探査により確認した高充電率のゾーンに対しボーリング調査を実施すべきである。Seweden地区では地表で把握した鉱化変質帯のうち、物理探査により確認した高充電率のゾーンに対しボーリング調査を実施し黄鉄鉱・白色化変質帯の深部への連続性を確認したが、さらに周辺部においてフォローアップのボーリング調査をするべきと考える。一方、Prambon地区においては北部地区においてボーリング着鉱の北方走向延長及び深部（傾斜方向）への延長の確認探鉱をとともに、他の石英・珪化脈に対してもボーリング調査を実施すべきである。なお、Purwoharjo地区についてはフォローアップの調査は必要ないと判断する。

2-2 Tempursari 地区に対する提言

Tempursari 地区では下記の地表で把握した鉱化変質帯・高充電率部に対し、ボーリングを実施することが望ましい。

- (1) Ngrawan 支沢：銅の鉱化作用域の下部
- (2) Ngrawan 本流：安山岩と閃緑岩の接触部付近の変質帯の下部

2-3 Seweden 地区に対する提言

Seweden 地区では本調査で実施した MJIE-S1 孔のフォローアップとしてその周辺の鉱化変質帯に対し、ボーリングを実施するべきと考える。

- (a) Putih 川：珪化・粘土化変質帯のなかで銅の鉱化作用が著しいゾーンの下部
- (b) Centung 川：石英脈～石英ネットワークゾーンの下部
- (c) Cekelan 川：土壤地化学探査試料の高い Au-As-Cu 値を示すゾーンの下部
- (d) Kuning 川：土壤地化学探査試料の高い Au-Ag-As-Cu 値を示すゾーンの下部

2-4 Prambon 地区に対する提言

Prambon 地区においては MJIE-P1 孔及び MJIE-P2 孔で着鉱した珪化・粘土脈のひ先延長部の確認探鉱のほか、北部に露出する他の珪化・石英脈についてもボーリング探鉱を実施し、稼行可能な金鉱床が賦存しているかどうか確認すべきである。

- (a) 中央部の東側の脈：MJIE-P1 孔及び MJIE-P2 孔で着鉱した珪化・粘土脈のひ先延長部と隣接する珪化・石英脈
- (c) 東部の珪化・石英脈：土地化学探査試料の高い Au-As-Cu 値を示すゾーンの下部
- (d) 西部の珪化脈：土地化学探査試料の高い Au-Ag-As-Cu 値を示すゾーンの下部